

## One coin (ワン コイン) 献金のお願い

「振替用紙で送るほどはできないし・・・でも応援したい」とお考えの皆さんに「ワン コイン献金」をお願いできないでしょうか。例えば、月に1回聖研をする時に、コンビニコーヒー1杯分(100円)をささげてくださると、一年で1200円になります。250人の方がそのようにしてくださると、一冊の手引を出版することが出来ます。

皆さんの「聖書を読む会 がんばれ!」が集まって新しい手引が出版されます!

### 「ワン コイン献金」に倣って

東京フリメソジスト教団 南大沢チャペル教会員 久米こずえ

2009年、多摩ニュータウン西方にある南大沢に引っ越して間もなく、我が家でのSYK聖研が始まりました。近隣にお住まいの教会の姉妹方が集まり月二回の聖研は待ち遠しく、楽しみの時間となりました。「マルコ」から始まり、次々と、既刊の手引を使って聖研を進め、毎回、豊かな学びと交わりの中で、共に分かち合うことの楽しさ喜びをいただいています。

霊の糧をたっぷりいただいた後は、各自持参した昼食、その後はティータイム。お交わりの時間です。これもまた楽し!!ある時、持ち寄りのお菓子のボリュームにふと気付く「これは食べ過ぎでしょう!!」。聖研の度に、ワン コイン献金をしているグループがあることを知り、私たちも、このお菓子を止めにして献金してはどうかと…。でも全くお菓子無しは寂しいので、司会者のみが用意することを取り決めたのです。おやつが献金に変わり、私たちはスマートになる(笑)。

一石二鳥のワン コイン献金によって聖書を読む会の働きに参加出来ることは、更なる喜び、感謝です。

### 事務所から

2012年より、SYKの働きは3人の主事で進められてきましたが、鈴木主事は、昨年度をもって退職いたしました。SYKが大きく変化した6年間、新しい時代への土台作りを共に担ってくださいました。姉妹に対する皆様のお祈りとお支えを心から感謝いたします。働き人の人数は減りましたが、ビジョンは燃えています!聖書を読む会を覚えてお祈りください。

首都圏在住の方を対象に、久しぶりに小さなセミナーを開催します。12月の「通信」紙面でお分かちしたいと願っています。暑くなります。お元気です!ns



◆◆ 「聖書を読む会」の働きは、皆さまのお祈りと献金によって支えられています ◆◆



聖書を読む会 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル内  
Tel/fax: 03-5577-4687 E-mail: sykoffice21@gmail.com  
Web: http://syknet.jimdo.com 郵便振替: 00180-9-81537

No. 117

2018年6月1日発行



## 「神の国に向かって生きる 3」-羽仁もと子

聖書を読む会 理事、同盟基督教団 理事長  
JEA 理事長、東京キリスト教学園 理事長  
廣瀬 薫

「私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。」  
(ピリピ人への手紙 4章 13節)

雑誌「婦人之友」の刊行、「自由学園」の創立、「友の会」の創設が羽仁もと子の実践の三本柱でした。テレビで紹介される友の会は、「カリスマ・スーパー主婦集団」のイメージがありますが、その創設の理念は「神の国建設」です。羽仁もと子は「友の会の目的は神の国の建設にある…そうしてそのリーダーはキリストです」と書いています。神の国を掲げてエネルギーな実践に生きた羽仁もと子から教えられることを以下に4つ箇条書きにします。

### (1) 創造から完成に向かうキリスト教世界観

羽仁もと子の信仰は、①創造→②墮罪→③回復→④完成 のフレームを持つ、聖書のキリスト教世界観に立っています。信仰の師と仰いだ植村正久牧師から学んだものでしょう。古屋安雄牧師は、「それはわが国のプロテスタント・キリスト教の教会的な正統的福音主義であった」と解説しています。

羽仁もと子は、②墮罪→③回復 の「救い主」の軸をわきまえつつ、①創造→④完成 の「創造主」の軸が非常に強いのが特徴です。信仰と受洗はゴールではなくスタートであり、尊い生き甲斐のある「救われた後」の人生に召されていることを教えられるのです。

だから、羽仁もと子の実践は、積極的で前向きです。最も知られている標語の一つは、「**良いことは必ずできる**」です。



(写真提供 婦人之友社) 仁もと子は神の国について、「**神のみ心が十分に行われて、神と人とがその中に共に自由に棲む国です**」と言っています。

教会では、死後、あるいは終末の神の国に至る「救霊」を重視するあまり、地上の実践に消極的となる傾向があったことを反省して来ました。(1974年のローザンヌ誓約) 神の国に向って生きたキリスト者たちは、時代に先駆けて、このような視点を持っていたのだと感じます。家庭・社会など全てに本来の姿があり、進むべき道があるのです。神様の呼びかけに応え、全てが本来の姿に生かされ喜ぶ「神の国建設」を使命と受け止めて労するのが私たちです。

### (3) 信仰を源として実を結ぶ実践

羽仁もと子の信仰は、実践と直結しています。冒頭紹介した3つの団体に掲げられている額の言葉は、「**思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ**」です。キリスト教世界観に立って神の国を建てる「**思想**」、信じたところに従って実践する「**生活**」、そして、それを可能にするエネルギーの供給源となる「**祈り**」。この3つが統合されて初めて私たちは「律法主義」に陥らない喜ばしい実践に生きることができるのです。

### (4) 贖罪の実践に結びつく十字架の理解

羽仁もと子は十字架を、神様から預けられた力を差し出して世の罪を担う、私たちの生き方として理解します。そう理解すると、十字架を負うのはイエス様だけでなく、私たちも自分の十字架を負い、イエス様と同じ質(贖罪的な質)を持つ実践をもって、日々イエス様について行くという人生観になります。「**愛というものは、いつでも悪いもののために善いものが犠牲になってやることです**」という愛の実践が、神の国を広げるのです。



## SYK便り

「救いの基礎」に続いて、オリジナル手引「使徒の働き—神の国の広がり—」が3月に出版されました。同封のチラシをごらんください。

### 「使徒の働き—神の国の広がり—」の使い方

この手引は、質問を手掛かりに丁寧に聖書を読み進んでいきますので、個人の通読のための手引としても最適です。

また、ボリュームのある「使徒の働き」を、月に1回のグループ聖研だけで学ぶと、かなり時間がかかりますが、個人の通読とグループ聖研を組み合わせれば、短時間で学び終えることが出来ます。次の聖研の日まで、それぞれの通読を励まし合い(数課分)、集まった時に、聖書箇所と「まとめ」を一緒に読み、「考えよう」の質問を語り合っではいかがでしょうか。また、一人ひとりが通読する中で考えたことなどを分かち合うのもよいでしょう。この方法だと、自分のペースで「使徒の働き」を読み、また、学んだことやチャレンジをグループで共有することもできます。



### オリジナル手引 第3弾

#### 「ローマ人への手紙 —主への従順を世界に—」もうすぐ出版!

なんとなく難しそう・・・と、敬遠されがちな「ローマ人への手紙」。でも、新しい手引で学ぶと、感動の書になります! ご期待ください!

#### 手引「ローマ人への手紙」巻末より

パウロは、三回にわたる宣教旅行が終わる頃には、ローマ帝国の東部での宣教の務めは終わったと考えて、次は、ローマ教会から送り出されて、帝国西部への宣教に向かう計画を立てていました。

ところが、ローマ教会は、律法と信仰の問題、また、市場で売られていた肉の問題で、分裂とつまずきに悩まされていたのです。ローマ教会にあてた手紙の中で、パウロは、どのように解決を目指したのでしょうか。

キリスト教の救いの真髄と壮大さを味わいながら、パウロの牧会と宣教の情熱に触れられる「ローマ人への手紙」をともに学びましょう。